

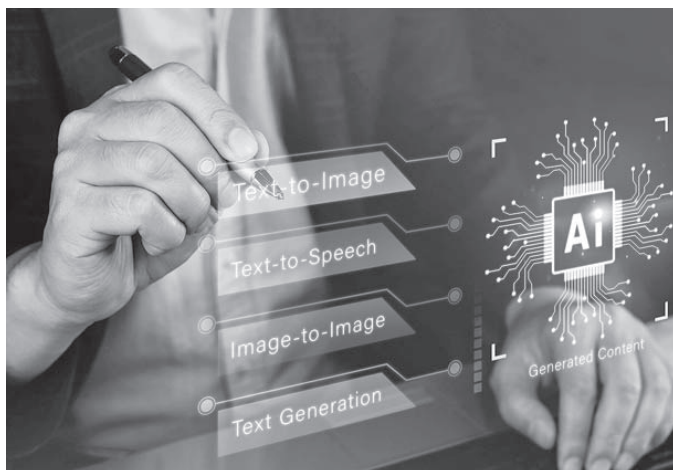
生成AI特集

生産性向上や業務効率化を目的に、生成AI（人工知能）の活用が金融機関でも進んでいる。稟議書やメール文面の作成、コールセンターでの応対など複数業務に高い精度で対応する。最近では、見込み顧客のフォローやアポイント取得を自動的に遂行可能な「自律型AI」も登場。ある開発会社によると「生成AIは、約4割のコスト削減を実現できる業務がある」という。本特集では、生成AIが企業検索や開発業務をアシストするツールを紹介する。

ベストな投資先調査

生成AIを活用し企業情報プラットフォームを提供するDATAZOR A（データゾラ、東京都）。同社の企業データベース「KIJJI（キジ）」は、国内約500万社の企業概要、ニュースリリース、求人情報、開示情報などを網羅する。フリーワードで検索すると、生成AIが入力内

容に合致した企業をリストアップ。企業の公式サイトを始めウェブ上に分散する人事情報、企業報告書などの、一般的なAPI（データ連携の接続仕様）では得られない非構造化データも収集・構造化し、提供できる。「ニッチな情報や中小企業のデータを探している



生成AIは業務負荷軽減とコストの削減を同時に実現する

ターゲット企業や新会社のリサーチにも有効だ。より確度の高い投資先や新規の営業先を効率よく抽出でき、「大幅な業務負荷軽減を実現する」（ザンザリアン代表取締役）と話す。

伴走支援で開発変革

企業の生成AI環境を構築し、効率的な開発をサポートするのがクレスコ（東京都）。同社の「AI駆動開発プラットフォーム」はAIの浸透状況を「導入」「拡張」「変革」の三段階に分類。各フェーズに最適化された支援を提供し、顧客が無理なく利用を進められ開発業務を最大50%効率化できる。現在最も力を注ぐのが、全社規模での活用を実現する「導入」フェー

ユーザーからも高く評価されている」とザンザリアン・アラム代表取締役は語る。資料への質問に対応するほか、個別に商談スクリプトやメール文面も作成でき、営業先のリサーチや金融機関では大手の証券会社や信託銀行などで利用が進む。人事異動情報のほか、企業の投資先調査に役立てている。ス

コスト4割削減を実現

「導入」「拡張」「変革」の三段階に分類。各フェーズに最適化された支援を提供し、顧客が無理なく利用を進められ開発業務を最大50%効率化できる。現在最も力を注ぐのが、全社規模での活用を実現する「導入」フェー

紹介したサービスの詳細資料はQRコードからダウンロードできます。

